

## 県内の患者数

矢印は、前週の数に対して ↑ 増加 ↓ 減少 → 横ばい を表しています。

	今週	前週		今週	前週
インフルエンザ	↑ 1,720	377	百日咳	→ 0	0
RSウイルス感染症	→ 53	54	ヘルパンギーナ	→ 4	4
咽頭結膜熱	↑ 17	13	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	↑ 62	59
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	↑ 119	69	急性出血性結膜炎	→ 0	1
感染性胃腸炎	↑ 1,069	822	流行性角結膜炎(はやり目)	↓ 10	16
水痘	↑ 83	74	細菌性髄膜炎	→ 1	0
手足口病	→ 2	1	無菌性髄膜炎	→ 1	0
伝染性紅斑(りんご病)	↓ 3	7	マイコプラズマ肺炎	↑ 7	5
突発性発しん	↓ 42	47	クラミジア肺炎	→ 0	0

報告が多い感染症

- インフルエンザ
- 感染性胃腸炎
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎

- インフルエンザは、報告数 1,720 件(前週報告数 377 件)と急増。地区別では、山鹿、菊池、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、10～14歳の411件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- 感染性胃腸炎は、報告数 1,069 件(前週報告数 822 件)と増加。地区別では、山鹿、人吉、宇城に多く報告がみられる。年齢別では、1歳の181件を最多に幅広い年齢層から報告されている。
- A群溶血性連鎖球菌咽頭炎は、報告数 119 件(前週報告数 69 件)と増加。地区別では、熊本、天草、人吉に多く報告がみられる。年齢別では、5歳の17件を最多に幅広い年齢層から報告されている。

## ◆◆◆保健所別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

保健所名	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎
熊本市保健所	644	9	11	65	317	27	1	3	14	0	0	16		8		1	6	
山鹿保健所	145	0	0	0	124	4	0	0	2	0	0	0	*	*				
菊池保健所	215	2	3	9	107	24	1	0	4	0	0	7						
阿蘇保健所	45	0	0	1	17	0	0	0	0	0	0	1	*	*				
御船保健所	45	0	0	0	37	0	0	0	0	0	0	0	*	*				
八代保健所	143	7	1	6	74	1	0	0	3	0	0	1						
水俣保健所	28	9	0	1	16	1	0	0	2	0	0	24	*	*				
人吉保健所	146	12	0	8	97	1	0	0	2	0	0	3	*	*	1			
有明保健所	125	1	0	8	122	10	0	0	6	0	0	2		2				
宇城保健所	69	7	0	7	88	6	0	0	2	0	0	4						
天草保健所	115	6	2	14	70	9	0	0	7	0	4	4					1	
計	1720	53	17	119	1069	83	2	3	42	0	4	62	0	10	1	1	7	0

## ◆◆◆年齢別発生状況(インフルエンザ・小児科・眼科・基幹定点)◆◆◆

インフルエンザ定点	合計	0～5ヶ月	6～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80歳以上
インフルエンザ	1720	1	15	71	69	112	139	152	142	114	95	86	411	54	36	91	61	26	21	13	11
小児科定点年齢	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20歳以上						
RSウイルス感染症	53	18	7	17	10	1															
咽頭結膜熱	17		1	3	4	1	2	2	2	1		1									
A群溶血性連鎖球菌咽頭炎	119		2	2	9	8	16	17	16	6	7	10	15	2	9						
感染性胃腸炎	1069	11	71	181	100	74	75	93	60	55	45	36	129	40	99						
水痘	83	4	7	22	18	15	4	7	1	2			3								
手足口病	2		1																		
伝染性紅斑	3						1				2										
突発性発しん	42		24	17	1																
百日咳	0																				
ヘルパンギーナ	4			2	2																
流行性耳下腺炎	62			3	5	10	7	12	9	10		2	4								
眼科定点年齢区分	合計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳以上	
急性出血性結膜炎	0																				
流行性角結膜炎	10												1	1	1	3	3	1			
基幹定点年齢区分	合計	0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上				
細菌性髄膜炎	1																	1			
無菌性髄膜炎	1			1																	
マイコプラズマ肺炎	7			3	1	1					1										
クラミジア肺炎	0																				

大きな流行が発生  
又は継続しつつある地域

インフルエンザ：山鹿・菊池

感染性胃腸炎：山鹿・菊池・八代  
人吉・有明・宇城・天草

流行性耳下腺炎：水俣

インフルエンザ



先週のインフルエンザの患者報告数が、注意報の基準値を超えました。地域別では、山鹿・菊池が警報レベル、御船・水俣を除く地域が注意報レベルを超えています。また、幼稚園や小・中学校からの学年・学級閉鎖の報告も増えています。インフルエンザは、突然の高熱と寒気、頭痛、全身のだるさ、筋肉痛などの全身症状が特徴です。時には肺炎や脳症などを併発して重症になることもあります。予防するために、①流行時には人混み避ける②手洗い・うがいを習慣づける③栄養、休養、睡眠を十分に取る④部屋の換気と保温に心がけるなどの対策を行いましょう。もし、かかってしまった場合は、学校や職場へは無理して行かず、早めに医療機関を受診し治療を受けましょう。また、周りの人へうつさないために、咳エチケットを心がけ、外出を控えるようにしましょう。特に、年始は人が集まる機会が多くなるので、体調管理をしっかり行いましょう。